

## 学習指導案（国語 現代の国語）

- 1 対象 第1学年5組
- 2 日時 2024年6月12日 4時間目(12:45～13:50)
- 3 場所 1年5組教室
- 4 単元名 「わらしべ長者」の経済学 『現代の国語』（数研出版）
- 5 単元について

### (1) 単元の目標

論理的文章の叙述をとらえ、要旨を把握することができることを目標とする。そのために、指示語の把握や接続詞の用法を理解できるようにする。

### (2) 教材観

本題材は、昔話「わらしべ長者」の物語から学べる点を、経済学の視点で述べているものである。経済学と聞くと生徒は難しい話だという印象を抱くかもしれないが、多くの人知っている「わらしべ長者」の物語から学ぶことができる経済学の原理が述べられているので、比較的生徒がなじみやすい題材であるといえる。

### (3) 生徒観

本学級では、自発的に意見を述べるような生徒は少ないものの、ペアワークや話し合いなどに対して積極的に取り組むことができる生徒が多い印象がある。また質問に答える生徒を指名すると、自分の考えを答えてくれる生徒も多く、授業に対してそれぞれが考えながら取り組んでいる印象がある。

### (4) 指導観

生徒が主体的に授業に取り組むために、生徒同士で考える時間を取ることや、自分で解答をまとめる時間を確保することを心掛ける。授業では、本文をスライドでスクリーンに映し、本文のどこに注目して読むかということを示しながら授業を行う。また、上部分に本文が、下部分に板書や問題の解答を書く欄を設けた授業プリントを用いることで、本文に線が引きやすく、どこに注目するかわかりやすくなる工夫をする。

## 6 単元の評価規準

A 知識及び技能	思考力・判断力・表現力等			E 学びに向かう 人間性
	B 聞くこと・ 話すこと	C 書くこと	D 読むこと	
本文中の語句の正しい意味や読み方を理解することができる。	自分の考えを相手にわかりやすく伝えることができる。	本文の根拠を基に、解答を書くことができる。	指示語や接続詞に注目して文章を読むことができる。	自分の考える解答を導き表現することができる。題材と実生活を関連して考えることができる。

7 単元の計画（総時間 5 時間）

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準
1	<p>本文を最初から最後まで音読し、語句の読み方や意味を確認する。</p> <p>p.36 ℓ 1～p.37 ℓ 2 の読解を行う。</p> <p>わらしべ長者がどのような話であったか、本文で確認するとともに、昔話の動画を見て理解を深める。</p> <p>本題材における経済学とわらしべ長者の関係について考える。</p>	<p>わらしべ長者という、比較的近い昔話と、論理的文章である本題材を関連付け、本題材に対する抵抗感をなくさせる。</p>	<p>正しい語句の意味や読みを理解できているか。</p>
2	<p>p.37 ℓ 3～ℓ 15 の読解を行う。</p> <p>わらしべ長者に対する一般的な考え方と、経済学の視点から見た筆者の考え方を比較する。</p>	<p>一般的な考え方と、経済学の視点から見た筆者の考え方が区別できるような説明や板書を心掛ける。</p>	<p>本文から正しい読み取りができているか。</p>
3	<p>p.37 ℓ 16～p.39 ℓ 5 の読解を行う。</p> <p>「自発的交換による価値の創造」、「市場の非完備性」とはどのようなことか本文から考える。</p>	<p>論理的文章を読むうえで注目すべき接続詞の用法などに触れ、それに注目して本文を読み進める。</p>	<p>接続詞の用法を理解できているか。</p> <p>接続詞に注目して、本文を読み取れているか。</p>
4	<p>p.39 ℓ 6～p.40 ℓ 8 の読解を行う。</p> <p>脚問① 「『これらの人たちの間に眠る経済学的価値』とは、どのようなものか。」</p> <p>脚問② 「『引き取る時点では倒れていて、死にそうであったということが見逃せない』のはなぜか。」を中心に本文読解を行う。</p>	<p>本文の接続詞などに注目して、解答は本文を根拠に作るということを心掛ける。</p> <p>問題に関しては生徒が自分で考え、解答を書く時間を確保する。</p>	<p>本文を読み取り、正しい読み取りができているか。</p> <p>自分の考える解答を導き、表現できているか。</p>
5	<p>*本時案参照</p>		

## 8 本事案 (5 時間目)

### (1) 本時の目標

- ・ 指示語や接続詞に注目して文章を読むことができる。
- ・ 本文と実生活を関連付けて考えることができる。

### (2) 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入 5分	授業プリントを配布する。  前回までの復習(p.36ℓ1～p.40ℓ8)を行う。	それぞれの段落での筆者の主張を復習する。	
展開 1分	p.40ℓ9～p.41ℓ2 ペアで音読をする。		
8分	本文を読み進め、授業プリントを使いながら内容整理を行う。	本文を読み進めていくうえで、「しかし」、「ではなく」、「つまり」という語がどんな場合に使われるのか、確認を行う。	
3分	運送業や小売業がなぜ我々の経済の中で大切な役割を占めているのか、本文を読みながら確認する。		本文を読み解けているかとともに、それを実生活と関連付けて考えているか。
3分	実際に自分たちの身の回りにどのような運送業、小売業があるか周りの人たちと話し合わせ、発表するとともに理解を深める。	実生活での事象を引き合いに考える。	
2分	p.41ℓ3～p.42ℓ3 ペアで音読をする。		

12分	本文を読み進め、授業プリントを使いながら内容整理を行う。	生徒への一方的な説明にならないよう、適宜質問をする。	
5分	「わらしべ長者的な生活」とはどのようなものか、自分たちの生活にもあるか周りの人と考え、発表する。	本文中から読み解くことを意識させる。	本文から適当な箇所を抜き出せているか。
1分	p.42 l 4~p.42 l 15 ペアで音読をする。		
5分	本文を読み進め、授業プリントを使いながら内容整理を行う。		
10分	脚問3 「経済学的な考え方の普遍性」とは、どのようなものか。について考える。 問題を解くにあたり、普遍性とはどのような意味か確認を行う。	生徒一人ひとりに答えを考え、自分の解答を文章として書く時間を作り、その後で周りと話し合う時間を取る。	自分で解答を考え、書けているか。  本文を適切に読み取り、答えをにかけているか。
7分	Q「ブータンでのある男の話とわらしべ長者の経済学的な共通点は何か」を考える。		
まとめ 3分	本時のまとめをするとともに、文章全体のまとめを行う。		

## 9 準備物等

教科書

授業プリント

パソコン(パワーポイントスライド)